



## 2019年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年5月13日

上場会社名 日本農業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4997 URL <https://www.nichino.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 友井 洋介  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部総務・法務部長 (氏名) 永井 統尋 (TEL) 03-6361-1400  
 四半期報告書提出予定日 2019年5月13日 配当支払開始予定日 2019年6月11日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年9月期第2四半期の連結業績 (2018年10月1日～2019年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第2四半期	37,186	0.6	4,092	9.6	4,082	3.2	2,981	18.0
2018年9月期第2四半期	36,955	4.1	3,732	3.7	3,955	4.3	2,525	5.9

(注) 包括利益 2019年9月期第2四半期 2,205百万円( 7.5%) 2018年9月期第2四半期 2,052百万円(△55.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2019年9月期第2四半期	円 銭 37.85	円 銭 —
2018年9月期第2四半期	37.79	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2019年9月期第2四半期	百万円 105,646	百万円 59,179	% 54.0
2018年9月期	98,003	57,576	56.8

(参考) 自己資本 2019年9月期第2四半期 57,050百万円 2018年9月期 55,662百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2018年9月期	円 銭 —	円 銭 7.50	円 銭 —	円 銭 7.50	円 銭 15.00
2019年9月期	—	7.50			
2019年9月期(予想)			—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年9月期の連結業績予想 (2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	68,000	11.1	3,800	△8.9	3,400	△6.9	2,500	△0.3	31.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 -社(社名) 、除外 -社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2019年9月期2Q	81,967,082株	2018年9月期	81,967,082株
2019年9月期2Q	3,191,604株	2018年9月期	3,190,978株
2019年9月期2Q	78,775,775株	2018年9月期2Q	66,836,574株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、好調な企業収益を背景に雇用情勢が改善し、個人消費が持ち直すなど緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、長期化する米中間の貿易摩擦の世界経済に与える影響や中国経済の減速が懸念されるなど、景気の先行きは依然不透明な状況にあります。

世界の農業生産は、人口増加や新興国の経済成長による農産物需要の拡大から引き続き伸長するものと考えられます。また、世界の農薬市場は、ここ数年成長が鈍化していましたが、ブラジルや米国など主要国の需要増加から再び拡大基調に転じています。当社グループの主要な販売地域に目を転じますと、北米では一部地域での天候不順の影響がみられたものの、病害虫の多発などから農薬使用量が増加し市場は堅調に推移しました。南米ではブラジルの過年度流通在庫が解消したことなどにより市場は好調に推移しました。アジアではインドや一部東南アジア地域が干ばつの影響を受けたものの、総じて農薬使用量が増加したことなどにより市場は堅調に推移しました。

一方、国内農業においては、政府が「農業競争力強化プログラム」を策定し、国内農業が抱える構造的課題、すなわち農業生産額の減少、農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加などについて、問題解決に向けた取り組みを始めていますが、未だ十分な効果を実感できるまでには至っておりません。さらに政府は、昨年11月に「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改訂し、ロボット、AI、IoT、ドローンなどのスマート農業新技術の開発、実証、普及を加速させるため「農業新技術の現場実装推進プログラム」（仮称）を本年夏までに策定し、農業現場への実装を推進させるなど、新たな動きがみられています。

このような状況下、当社グループは今期を初年度とする新中期経営計画「Ensuring Growing Global (EGG2021) グローインググローバルを確実に！」に取り組み、収益性の向上とグループ力強化を目指しております。

当第2四半期連結累計期間の当社グループの売上高は、ノウハウ技術料収入の増加やSipcam Nichino Brasil S. A.の販売伸長などから371億86百万円、（前年同期比2億31百万円増、0.6%増）となりました。利益面においてもノウハウ技術料収入の増加などから営業利益は40億92百万円（前年同期比3億60百万円増、9.6%増）、経常利益は40億82百万円（前年同期比1億27百万円増、3.2%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は29億81百万円（前年同期比4億55百万円増、18.0%増）となりました。

なお、中間配当金は7円50銭とさせていただくことといたしました。

当第2四半期連結累計期間における報告セグメントの概況は以下のとおりです。

#### [農薬事業]

国内農薬販売では、新製品3剤の販売を開始し品目ポートフォリオの拡充を図るとともに、殺ダニ剤「ダニコング」や園芸用殺虫剤「フェニックス」を始めとする主力自社開発品目の普及拡販に努めました。また、前期より販売を開始した園芸用殺菌剤「パレード」の販売が好調に推移しました。しかしながら、一部品目の取り扱い中止や昨年相次いだ台風等の自然災害に起因した防除回数の減による流通在庫の影響などから国内販売全体の売上高は前年同期を下回りました。

海外農薬販売では、世界最大のブラジル市場の需要回復を受けSipcam Nichino Brasil S. A.の売上高が伸長しました。一方、アジアの主要販売国である韓国と中国では病害虫の小発生や流通在庫の影響により販売が伸び悩みました。さらに、雨季後半の降雨量が少なかったインドは作付けの遅れなどから農薬需要が低迷し、Nichino India Pvt. Ltd.の売上高が伸び悩みました。これらの結果、海外販売全体の売上高は前年同期を下回りました。なお、園芸用殺虫剤「コルト」は、昨年11月に米国食用登録を取得し、Nichino America, Inc.より本分野での販売を開始しました。

ノウハウ技術料収入は、技術導出先による当社開発品目の販売が好調に推移したことなどから前年同期を上回りました。

以上の結果、農薬事業の売上高は344億19百万円（前年同期比41百万円減、0.1%減）となり、営業利益は35億90百万円（前年同期比1億12百万円増、3.2%増）となりました。

[農薬以外の化学品事業]

化学品事業では、シロアリ薬剤分野で株式会社アグリマートとの協働による販売戦略が奏功し、売上高は前年同期を上回りました。また、医薬品事業では、外用抗真菌剤「ルリコナゾール」の爪白癬分野の販売が好調に推移しました。

以上の結果、農薬以外の化学品事業の売上高は18億36百万円（前年同期比1億96百万円増、12.0%増）となり、営業利益は6億55百万円（前年同期比1億56百万円増、31.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ76億42百万円増加し、1,056億46百万円となりました。これは、農薬の需要期となる第2四半期の季節的変動による売上債権の増加が主な要因です。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ60億39百万円増加し、464億66百万円となりました。これは、短期借入金及び仕入債務の増加が主な要因です。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ16億3百万円増加し、591億79百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加が主な要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期の連結業績予想につきましては、2018年11月13日公表の連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,889	14,882
受取手形及び売掛金	21,986	33,437
電子記録債権	1,817	1,444
商品及び製品	11,518	13,974
仕掛品	849	873
原材料及び貯蔵品	5,859	5,629
その他	2,940	2,245
貸倒引当金	△455	△144
流動資産合計	63,405	72,344
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,294	5,204
機械装置及び運搬具（純額）	3,688	3,619
土地	6,126	6,139
その他（純額）	948	612
有形固定資産合計	16,056	15,576
無形固定資産		
のれん	5,625	5,492
その他	1,218	1,179
無形固定資産合計	6,844	6,672
投資その他の資産		
投資有価証券	5,618	5,305
親会社株式	1,539	631
その他	4,554	5,428
貸倒引当金	△15	△312
投資その他の資産合計	11,697	11,053
固定資産合計	34,597	33,302
資産合計	98,003	105,646

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,610	13,087
電子記録債務	776	1,167
短期借入金	6,261	10,361
未払法人税等	715	1,480
賞与引当金	734	652
環境対策引当金	778	595
その他の引当金	68	65
営業外電子記録債務	89	25
その他	6,783	5,938
流動負債合計	26,818	33,374
固定負債		
社債	1,710	1,712
長期借入金	8,639	8,458
退職給付に係る負債	756	693
その他の引当金	54	43
その他	2,447	2,183
固定負債合計	13,608	13,092
負債合計	40,427	46,466
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,939	14,939
資本剰余金	15,057	15,057
利益剰余金	28,571	30,962
自己株式	△1,727	△1,728
株主資本合計	56,840	59,231
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,981	1,076
為替換算調整勘定	△3,477	△3,566
退職給付に係る調整累計額	317	309
その他の包括利益累計額合計	△1,178	△2,180
非支配株主持分	1,913	2,129
純資産合計	57,576	59,179
負債純資産合計	98,003	105,646

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年10月1日 至2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年3月31日)
売上高	36,955	37,186
売上原価	24,743	24,652
売上総利益	12,212	12,534
販売費及び一般管理費	8,479	8,441
営業利益	3,732	4,092
営業外収益		
受取利息	81	84
受取配当金	60	70
不動産賃貸料	40	38
為替差益	70	—
持分法による投資利益	261	309
その他	68	118
営業外収益合計	581	619
営業外費用		
支払利息	256	266
為替差損	—	198
デリバティブ評価損	29	54
その他	72	109
営業外費用合計	358	629
経常利益	3,955	4,082
特別利益		
投資有価証券売却益	133	—
親会社株式売却益	—	515
特別利益合計	133	515
特別損失		
固定資産処分損	21	22
製品回収関連費用	57	—
環境対策費	17	100
特別損失合計	96	123
税金等調整前四半期純利益	3,992	4,475
法人税等	1,156	1,256
四半期純利益	2,836	3,218
非支配株主に帰属する四半期純利益	310	237
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,525	2,981



## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益	2,836	3,218
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△348	△905
為替換算調整勘定	△505	10
退職給付に係る調整額	△2	△7
持分法適用会社に対する持分相当額	72	△110
その他の包括利益合計	△784	△1,013
四半期包括利益	2,052	2,205
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,728	1,978
非支配株主に係る四半期包括利益	323	226

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年10月1日 至2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,992	4,475
減価償却費	710	740
のれん償却額	209	194
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△21	△16
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△41	△92
製品回収関連費用引当金の増減額(△は減少)	△137	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△52	△79
受取利息及び受取配当金	△141	△154
支払利息	256	266
持分法による投資損益(△は益)	△261	△309
親会社株式売却損益(△は益)	—	△515
投資有価証券売却損益(△は益)	△133	—
売上債権の増減額(△は増加)	△13,183	△11,598
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,466	△2,265
仕入債務の増減額(△は減少)	4,269	2,913
環境対策引当金の増減額(△は減少)	△114	△183
その他	△1,086	337
小計	△7,201	△6,287
利息及び配当金の受取額	141	154
利息の支払額	△244	△270
法人税等の支払額	△513	△562
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,818	△6,966
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△733	△749
無形固定資産の取得による支出	△178	△53
投資有価証券の取得による支出	△48	—
投資有価証券の売却による収入	171	—
親会社株式の売却による収入	—	635
定期預金の預入による支出	△452	△317
定期預金の払戻による収入	474	238
その他	△0	△29
投資活動によるキャッシュ・フロー	△766	△275
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	6,712	6,034
短期借入金の返済による支出	△706	△2,431
長期借入れによる収入	3,000	1,718
長期借入金の返済による支出	△1,574	△1,426
リース債務の返済による支出	△65	△63
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△501	△590
非支配株主への配当金の支払額	△9	△11
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,854	3,229
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	△67
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,702	△4,079
現金及び現金同等物の期首残高	10,128	17,534
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,426	13,455

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	農薬	農薬以外の 化学品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	34,460	1,639	36,100	855	36,955	—	36,955
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	0	3	502	505	△505	—
計	34,463	1,640	36,103	1,357	37,460	△505	36,955
セグメント利益	3,478	499	3,977	146	4,124	△391	3,732

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、造園緑化工事、不動産の賃貸、物流サービス、農薬残留分析ほかを含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△391百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△391百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	農薬	農薬以外の 化学品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	34,419	1,836	36,255	931	37,186	—	37,186
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	0	3	529	532	△532	—
計	34,421	1,836	36,258	1,460	37,719	△532	37,186
セグメント利益	3,590	655	4,246	221	4,468	△375	4,092

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、造園緑化工事、不動産の賃貸、物流サービス、農薬残留分析ほかを含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△375百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△375百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。